

講演要旨

2017年8月2日 横山繁盛

鎌倉淡青会公開セミナー@円覚寺

2017年 第1回 7月25日

演題：「釈宗演老師に学ぶ」

講師：円覚寺管長 横田南嶺老師

釈宗演老師は、安政6年(1859)現在の福井県高浜で一瀬家の次男として生まれた。安政年間は、黒船の来航や安政の大獄のあった激動の時代であった。大正8年(1919)61歳(満59歳)で没した。平成30年(2018)は、100年遠忌にあたる。

- 12歳 遠縁にあたる京都妙心寺の越溪について得度した。
 - 15歳 建仁寺の俊崖について本格的禅の修行を始める。
 - 19歳 今北洪川の師匠であった曹源寺の儀山について修行をする。
 - 20歳 円覚寺の今北洪川に参じた。
 - 25歳 諸先輩を追い越して印可(修行が全部終わったというしるし)を得る。
 - 27歳 師の今北洪川が反対するも、慶応義塾に入学。
 - 29歳 原始仏教を学ぶためセイロンに游学し、世界情勢を肌身で感じ、伝統を守るだけではないと知る。
 - 34歳 今北洪川が没し、円覚寺管長に就任する。
 - 35歳 日本の仏教界では出席見合わせの意見があるもシカゴ万国宗教大会に代表として渡米し、「仏教の要旨並びに因果法」と題して講演する。これがきっかけとなり、この後、鈴木大拙を米国に派遣する。
 - 45歳 建長寺管長を兼職する。
 - 46歳 日露戦争の従軍僧になる。
 - 47歳 建長、円覚両寺の管長を辞し、東慶寺に遷る。この年に米国、ヨーロッパ、インドを1年3ヶ月かけて巡遊し翌年帰朝する。
 - 48歳~ 日本全国を、仏教を説いて回る。
 - 58歳 円覚寺管長に再任される。
 - 61歳 6月に病臥し、11月に遷化。
- 鈴木大拙は、始め今北老師につき、亡くなると釈宗演につく。明治30年に釈宗演の推薦で渡米し、10年間滞在し、米国で名をなした。その後円覚寺の正伝庵に住み、当時東慶寺の住職をしていた釈宗演に学ぶ。
 - 夏目漱石は、漱石が27歳、釈宗演老師が35歳の時に円覚寺で参禅体験をした。
 - 8人もの法嗣(ほっす)を育てた功績があり、その中には京都の大徳寺の管長や、円覚寺の管長になった人もいた。
 - 幾つかの漢詩と和歌の紹介がおこなわれた。
 - 最後に、釈宗演老師は、智の人、情の人、勇の人(智、仁、勇)であった、と結ばれた。